

第2回 京都府移住促進条例改正等検討委員会【開催概要】

1 日 時

令和8年7月24日（金）午前10時～午前12時

2 形 式

グランヴィア京都 3階 栄華の間及びWebによる会議

3 出席者

【委員会】

山極委員（座長）、小谷委員、小畑委員、黒坂委員、鈴木尚美委員、鈴木博之委員、中川委員

[欠席：田中委員、辻田委員]

【京都府】

松浦総合政策環境部長、吉田地域政策室長、大野企画参事、嶋渡農村振興課参事

4 議事内容

移住条例と移住施策の方向性について

5 主な意見

■移住条例及び施策の方向性

- ・移住施策は継続しつつ、人口減少への対応として、地域課題の解決に取り組む人材の呼び込みを重視すべきである。
- ・関係人口の位置付けには賛成であり、条例と具体施策の役割分担を整理するとともに、移住者数だけでなく定着や地域貢献も評価すべきである。
- ・条例改正の目的について、移住者増加を目指すのか、地域活性化を目指すのかを明確にすべき。
- ・施策の方向性の検討に当たっては、府内移動と府外からの移住を区分して分析することが重要である。
- ・地域ごとに課題や必要な人材が異なるため、それぞれの実情に応じた施策展開が必要である。

■地域課題の明確化と関係人口の活用

- ・地域側は、助言や提案だけでなく、祭りの準備や草刈りなどの地域活動を住民とともに担うことのできる関係人口を求めている。
- ・地域が自ら課題を認識し、その解決に参加したい人材を呼び込む仕組みが必要。人材を奪い合うのではなく地域間でシェアする発想が重要。
- ・関係人口は年齢や属性ではなく、地域課題の解決において果たす役割の観点から整理すべき。

・地域課題は自治体ごとに異なるため、個人だけでなく企業との関係人口づくりも重要である。

・関係人口を増やすためには、地域課題の解決だけでなく、地域の魅力や楽しさが伝わる発信が必要である。

■企業・産業との連携

・移住促進や若者の定着には、やりがいのある魅力的な仕事の確保に加え、賃貸住宅を含む住まいの確保が重要である。

・地域や企業の課題を整理した上で、関係人口やスタートアップとの連携につなげる視点が重要である。

・移住促進には仕事や雇用の確保が欠かせない。

・企業による継続的な地域との関わりや、地元企業との連携を通じた関係人口づくりが重要である。

・国・府・市町村の施策を一体的に整理・発信するべき。

■空き家活用・住宅施策

・空き家改修だけでなく、空き家の発掘への支援が必要である。

・移住促進には住まいの確保が不可欠であり、空き家活用施策の充実が必要である。また、市町村ごとの取組状況を踏まえ、府による財政支援も重要である。

・空き家の利活用に当たっては、サブリースも有効ではないか。

・空き家活用に当たっては、分散型ホテルなど移住以外の活用方法も検討してはどうか。

■地域との継続的なつながりづくり

・地域課題の把握、地域住民の学び直し、外部人材とのマッチング、事業実施への支援を一体的に進めることが重要である。

・移住は段階的なプロセスであり、各段階に応じた切れ目のない支援が必要である。

・移住者や関係人口だけでなく、地域住民や企業もメリットを実感できる仕組みづくりが重要である。

・地域住民が定期的に集まり交流する場を設けることが、地域活性化や関係人口とのつながりづくりにつながる。

■学生・若者との関わり

・子どもの頃からの自然体験や地域体験が、将来の地域への関心につながる。府内には既にこうした取組を実施している団体が多いものの、十分に認知されていないのではないか。活動の周知や体験参加を促進するための工夫が必要ではないか。

・大学生が地域に関わる機会を増やすことは、地域活性化の観点から重要である。

・ボーイスカウト活動など、子どもが自然や地域に触れる体験機会の充実が重要である。

・大学生等が地域課題や地域産業に触れる機会を増やすため、移動・滞在に係る支援が必要である。

・学生時代に地域課題や地域の魅力を体験する機会が、将来の地域との関わりにつながる

る。

■ 条例の整理・制度設計

・条例は基本理念や役割を定め、具体的な施策は計画や事業で展開することを意識すべきである。

■ 広報・キャッチコピー

・キャッチコピーは、地域課題よりも魅力や楽しさが伝わる表現の方が効果的ではないか。

・自然との触れ合いや人とのつながり、自己実現や社会貢献など、地域で得られるやりがいを訴求する表現が重要。

・「京都で活躍してみいひん」という京都らしい表現は、親しみやすく前向きなメッセージとして有効ではないか。

・「京都で生きる力をもらう」といった、生きがいや成長を感じられるメッセージも有効ではないか。